



スマイルサポート



No. 4 平成29年10月11日発行 担当：畠山佳子

10月に入りました。秋は様々な校(園)内外の行事が目白押しで御多忙のことと思います。

9月29日に、ある地域で子どもに関わる関係者(保育士・小学校・児童クラブ・保健師・行政)が初めて一堂に集まり、発達障害の理解と対応についての研修会が開催され、本校が協力しました。小さな地域ならではの取組ですが、地域ぐるみで取り組む姿勢は素晴らしく、「共生社会の実現」に向けた取組につながることでと思います。演題は「ペアレント・トレーニングを学校・園にいかすティチャーズ・トレーニング～発達障害の子にも周りの子にも有効な支援～」です。この他にも様々な内容の研修会に協力しておりますので、ぜひ、御活用ください。子育ての講話依頼も増えています。

さて、本校は、「北地区高等学校特別支援隊研修会兼第4回スマイルサポートセミナー」を次のとおり計画しましたので、お知らせします。今回は大館桂桜高等学校と共催します。先進的な取組をしている3校(小坂高・二ツ井高・桂桜高)の特別支援教育コーディネーターの先生方を講師に、具体的な取組について、事例を発表していただく予定です。たくさんのお参加をお待ちしております。

「第4回スマイルサポートセミナー」の予定

日時・対象・場所	講師及び研修内容
11/29(水) ・大館桂桜高等学校との共催 ・場所：大館桂桜高等学校 大講義室 ・時間：15:15～16:50	○第4回スマイルサポートセミナー ・講師：県立小坂高等学校 教諭 大塚 陽平 氏 県立二ツ井高等学校 養護教諭 谷内 敦子 氏 県立大館桂桜高等学校 教諭 庄司 佳子 氏 ・演題：高等学校における発達障害の理解と具体的な対応の実践～先進的な取組をしている3校の事例発表を通して～

*16:55～教育相談会も開催します。お悩みのことがありましたら、お気軽に御相談ください。

9月7日、大館市立川口小学校の特別支援教育スキルアップ研修会に参加しました。

特別支援学級の二つの学級の授業を参観させていただき、大変感銘を受けました。自立活動の指導は、道徳と同じく授業時間における指導はもちろん、学校生活全体を通して指導することが大切ですが、川口小学校では生活単元学習と国語科の中で、自然と、児童たちの人間関係を築くために必要な指導である「ソーシャルスキル」を高めておりました。日々の繰り返しの指導を大切にしてきた成果だと思いました。事後研究会の中で「非認知スキル」の大切さについて、情報提供してきましたので紹介します。週刊東洋経済「教育」の経済学(2015年10月24日発行)で取り上げた「非認知スキルの高め方」によると、これまで教育は認知スキルの向上が焦点となりがちでしたが、非認知スキルを高めることが将来の成功を左右するという研究成果が数多く発表され、世界的な注目を集めているそうです。

その中で自制心を高めるためには「頑張れる水準を引き上げること」と、次の3つのポイントを紹介しています。

- ①習慣化
- ②将来の目標に対する内発的な動機(意志力の維持につながる)
- ③家族や周囲の影響(節約のきいた前向きな人が多いと、自製のレベルが高まる)

認知スキル+非認知スキル=人間の「総合力」
今非認知スキルが注目されている

【認知スキル】 * 数値化が可能 ・ 学力 ・ 記憶力 ・ IQ	【非認知スキル】 * 目に見えない力 ・ 思いやり ・ やい抜く力 ・ 自制心 ・ 勤勉性 ・ 自尊心	プラス 人に助けを 求める力「 助けられ上手 」 も大切
---	--	--

子どもの頃に**セルフコントロール力(自制心)**が高い人は将来収入も社会的地位、健康度も高くなる。
(ニュージーランド1000人の子どもの約30年の追跡調査より)

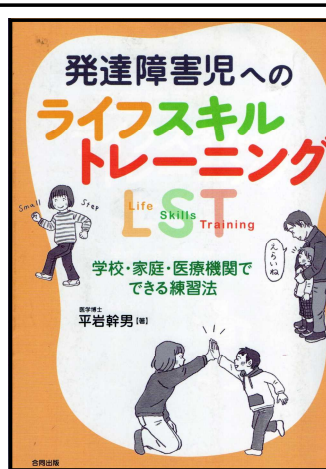
*①の習慣化は、「『いつもの時間、いつもの場所で読書10分、～〇時に起きる』など簡単なことからよく、継続することで鍛えられる。」とあります。発達障害のある子どもも周りの子どもも、学校や園生活の中で「認知スキル」に加えて「非認知スキル」をスモールステップで指導し、出来たことを認め高めることで、発達障害児の二次的な障害の予防に努めたいものです。

文献紹介

教科で育てるソーシャルスキル40 桂聖他4名著 明治図書

この本は、子どもの学校生活の教科の授業の中で「生きたソーシャルスキル」を学ぶことができるように、画期的な方法として考えられ、筑波大学附属小学校の国語、算数、音楽、体育の事例が紹介されています。国語では、桂聖氏(UD学会代表)が10のスキルを紹介しています。その中で「話を聞けない子」への指導として、「きく」には、聞く、聴く、訊くの3段階があることや○学校で一番大切なのは、先生や友だちの話を聴くことだという価値観を伝える。

- 聴かざるを得ない状況をつくるように働きかける。
 - ・「～さんの発表したいところを、隣の人に説明しない。」他
- 訊かざるを得ない状況をつくるように働きかける。
 - ・「今から～さんが発表しますが、後で質問できるように聴きなさい。」他
- 聴き方や訊き方を褒めて典型化する。
 - ・「あなたがうなずきながら聴いているから、～さんは話しやすいね。」などがあります。



「発達障害児へのライフスキルトレーニング」平岩幹男著 合同出版

ソーシャルスキルは対人関係の技術の向上を言語的な手段を介して行いますが、生活習慣を規則正しくする、必要なときに我慢する、自分の感情をコントロールするなど、言語的手法以外の非言語的手法を含めているのが「ライフスキル」です。ライフスキルとは、社会生活を送っていく上で、必要な様々な技術で、コミュニケーションや行動をコントロールする能力、日常生活の習慣の獲得まで多岐にわたります。学校でライフスキルを学ぶことは教師にとっても子どもにとっても学校生活が円滑に楽しいものになっていくと著者は述べています。

ルールや順番を守るトレーニングの一つとして、じゃんけんし負けたら「まあいいか」を言う練習 →



「パー」で負けて「まあいいか」と言います

目を見て人と話すトレーニングの一つ 確実に分からない質問を出して「分かりません」と言う練習 →



確実にわからない質問を出して、相手の顔を見ながら「わかりません」と言う練習をします

HINAI スマイルサポート相談会

今年度も、大館市内の特別な支援が必要なお子さんに関わっているみなさんを対象に、「HINAI スマイルサポート相談会」を行っています。ざっくばらんにみなさんと一緒に、有効な支援について考えていきたいと思っておりますので、お気軽に御参加ください。これまで、小学校3名、高等学校1名の計4名の方に御利用いただいております。



- ・場所：比内支援学校
- ・内容：障害理解や対応の仕方、日々の授業づくり、教材・教具、個別の指導計画の立て方 校内支援委員会のもち方、年間計画の作成等
- ・申し込み：希望日の1週間前までです。下記に(担当：畠山)御連絡をお願いします。予定日以外にも相談に応じています。ぜひお誘い合わせの上、おいでください。御来校をお待ちしております。

地域支援担当

何でもお気軽に御相談ください。紹介した文献の貸し出しも行っています。



比内支援学校 教育専門監 小笠原 英紀

特別支援教育コーディネーター 畠山 佳子

【問い合わせ先】TEL 0186-55-2131 FAX 0186-55-2132